

社協職連協にゆ～す



第35号

発行：茨城社会福祉協議会職員連絡協議会

令和2年12月25日 発行

コロナ禍の今だからこそ、支えあい助けあう 職場づくりを進めていきませんか！

大変残念なことではありますが、今年に入ってから全国各地で社協職員による不祥事が報道されました。それは今年に限ったことではなく、これまで社協職員の不祥事は度々取り沙汰されています。

我々同じ社協職員としては、当事者職員を非難する前に考えなければならぬことがあるのではないのでしょうか。

- ★「なぜ、その職員はそのような行為をしてしまったのか？」
- ★「その職員に変わった様子はなかったか？」
- ★「その職員に業務負担が集中したりしてなかったか？」

もちろん、いかなる理由があっても、横領や私的流用は犯罪であり、許されることはありませんが、同じ職場で働く仲間の異変に誰かが逸早く気付くことができれば不祥事は未然に防げるものと考えます。

ソーシャルディスタンスが当たり前になってしまった今だからこそ、職員一人ひとりがこれまで以上に働く仲間を気にかけて、心の距離を縮めていってください。



仕事で辛い時、悲しい時はどうしている？

とある社協の web サイトで「仕事で辛い時、悲しい時はどうしている？」の問いに、職員の答えが掲載されていました。

- ★「同僚に話を聞いてもらおうと気持ちが軽くなる！」
- ★「同僚に相談する中で乗り越えてきた！」
- ★「職員同士互いに協力して意見を聞き、気持ちを共有する！」

仲間に相談することで 100%解決とまではいかないかもしれませんが、「相談することで活路が見いだせる」と、多くの職員が答えていました。

しんどい時は働く仲間を頼ってください。そして、困っている仲間の話を聞いてください。自ずと支えあい助けあえる職場になってくると思います。



今号は**稲北支部**が
担当しました。

★**会員だけでなく、会員家族も参加できる支部活動に！**
稲北支部の活動は会員本人のみを対象にするのではなく、会員家族も参加できる形に活動を変えてきました。視察研修と併せて、陶芸やせんべい焼き体験など親子で体験できるメニューを取り入れています。「普段なかなか子どもとの時間が取れなかったので、一日じっくり子どもと接することができてとてもよかった」と、参加者からはとても好評でした。これからも会員家族間の親睦交流を兼ねた研修を実施していくとともに、支部活動の意義の共有を図っていききたいと思います。

稲北支部の「稲北って？」と思われる方もいるかもしれませんが。稲敷郡の「稲」と北相馬郡の「北」双方の頭文字を取って「稲北」です。稲北支部を構成する市町村社協は9社協ですが、残念ながら7社協の個人会員が退会し、現在、牛久市社協と利根町社協の一部の会員で活動を行っており、会員数は八〇名です。

こんにちは！稲北支部です。